

第8回「郷土舞踊と民謡の会」写真

黛 友明

解説

日本青年館所蔵の第8回「郷土舞踊と民謡の会」写真12点について紹介する。

写真は、縦長の台紙に一枚ずつ貼り付けられて、左側に二つ穴が開けられ、綴り紐で綴じられている。表題はなく、白紙の台紙が表紙代わりになっている（以下、表紙と呼ぶ）。これも含めた台紙の枚数は、全部で15枚である。

台紙の右上には「種類」「番号」「名称」「昭和 年 月 日」という欄が印字されているが、裏は白紙である。表紙、1枚目には写真も記載もなく、2枚目から「種類 〃」「番号 2」「昭和9年4月12日」と記され、「名称」は空欄となっている。日付は、1934年の第8回の開催日の前日であるため、これが試演のときの記録だということが判明する。

番号は、連番となっており、最後が14であり、「種類」と日付はすべて同じである。つまり、この写真帳には台紙の1があり、そこに種類名も記載されていたと推測できる。また、番号9には写真がなく、一度貼り付けてからはがしたと思われる跡が残っている。このことから、本来写真は14点（もしくはそれ以上）あったことがわかる。

次に撮影されている対象についてみてみよう。第8回は、1934年4月13～15日に開催され、祭頭ばやし（茨城県鹿島郡高松村・中野村）、臼太鼓踊（熊本県球磨郡人吉町）、船唄（北海道檜山郡江差町）、棒踊（鹿児島県日置郡田布施町）、風流とハンヤ舞（福岡県八女郡星野村）、朝鮮の豊年踊（京畿道金浦郡陽東面登村里）、豊年をどり（群馬県佐波郡玉村町）が出演した〔神田 1934〕。写真には道県名と芸能の名前が印字されているものもあり、第8回のプログラムとの関係を一覧にすると以下

表1 第8回郷土舞踊と民謡の会写真一覧

台紙番号	被写体	キャプション
(1)	(台紙なし・写真なし)	—
2	船唄（北海道）	「北海道 船歌」 ^{ママ}
3	臼太鼓をどり（熊本県）	「熊本縣 臼太鼓踊」
4	棒踊（鹿児島県）	なし
5	〃	「鹿児島縣 棒踊」
6	船唄（北海道）	なし
7	風流とハンヤ舞（福岡県）	「福岡縣 ハンヤ踊」
8	朝鮮の豊年踊	「朝鮮 其二 豊年踊」
9	(台紙あり・写真なし)	—
10	朝鮮の豊年踊	なし
11	〃	なし
12	豊年をどり（群馬県）	なし
13	〃	なし
14	〃	なし

の表になる。

郷土舞踊と民謡の会の記録は、本報告書論考篇「郷土舞踊と民謡の会」の理念と現実」でも述べたようにほとんど現物が確認されていない。写真も、これまでは『日本民俗藝術大観』や、新聞や雑誌などに掲載されていたものがあるが、ここまで鮮明に確認できるものはなかった。ただ、日本青年館に所蔵されているからといって、これが事業のなかで撮影され、保管されていたものなのかは定かではない。

なぜなら、撮影者・作成者が不明なうえ、「郷土舞踊の會（第一回-第八回）記録目次」（『第十回郷土舞踊関係書類 其一』所収、日本青年館所蔵）には、第8回の写真は「館ニテノモノナシ」と日本青年館大講堂で撮影したものはないと記載されているからである。郷土舞踊と民謡の資料については、「戦前の大会の記録は秋田の飾山囃子のみが刊行されたが、戦争でその一切が失われた」[山路2018：19]とされ、熊谷辰治郎の回想によれば、「この記録は誠に貴重なもので、戦争が烈しくなるにつれて、東京に保管することに危険を覚えて、新潟県高田市の野口孝徳君の厚意で、そこにこれらの資料を運ぶことにした。」[熊谷 1979：35]とのことで、実際には疎開させていたようだが、その行方は現時点では不明である。そのため、この写真が、日本青年館の公式の記録なのか、それとも試演に同席した関係者が個人的に撮影したものかはわからず、1934年以降に日本青年館に持ち込まれたものである可能性も考えられる。

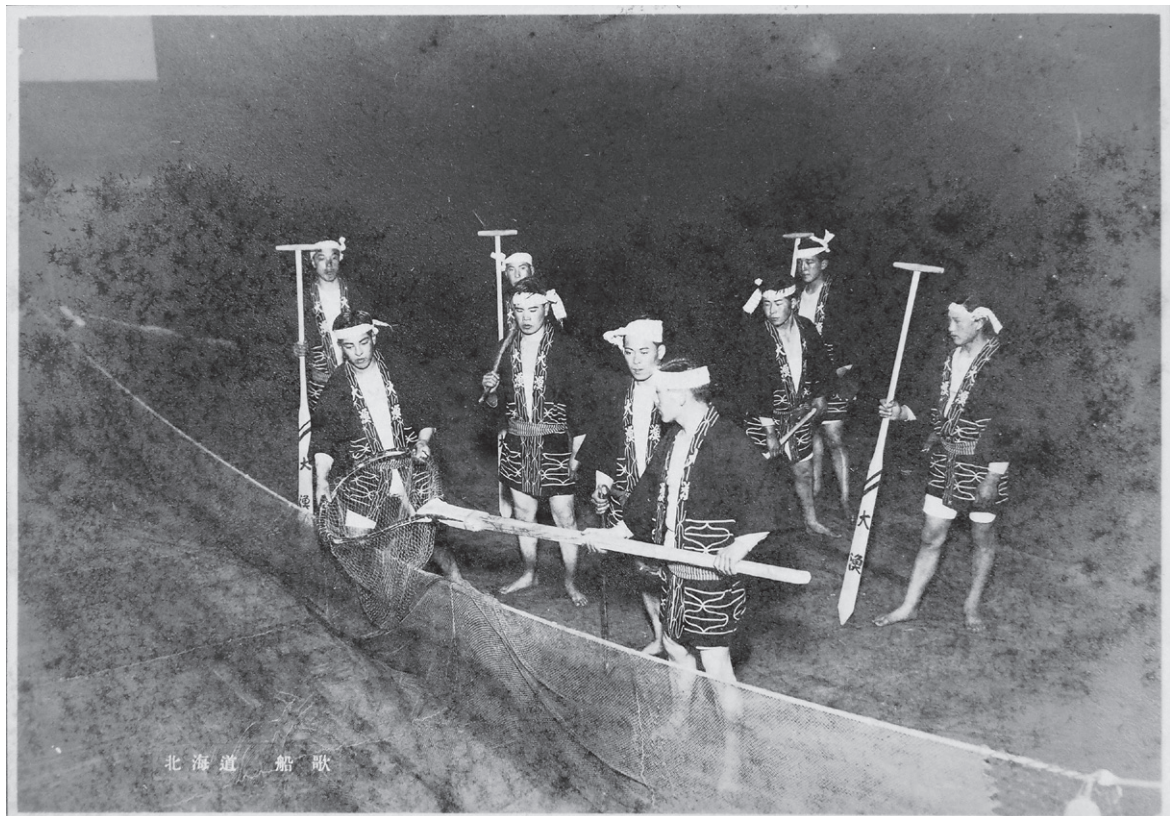
ただ、いずれにせよ、これが郷土舞踊と民謡の会とそこに出演した芸能のあり方を知るうえで重要な資料であることは間違いない。

例えば、写真に写った舞台の背景は黒であるが、舞台監督を務めた小寺融吉によれば、上演にあたっては「背景は例に依て第一部は浅黄の無地、第二部は鼠無地のビロウドを用いた」[小寺1932：60]としている。確かに、比較的鮮明な第3回の写真が掲載されている『芝居とキネマ』の記事を見ても確かに背景は使い分けられている[無記名1928]。試演で背景が用意されていないのは、それぞれの民俗芸能の様子を見てから判断していたためかもしれない。舞台全体だけではなく、寄った写真もあるので、出演者の服装や足元、セットや道具、人の配置などを検討することができ、舞台化の詳細を知る手がかりとなる。

参考文献

-
- 神田海之助編 1934 『郷土舞踊と民謡』（第8回） 日本青年館
熊谷辰治郎 1979 「日本青年館と民俗芸能」『民俗芸能』30
小寺融吉 1932 「舞台化の記録」『日本民俗藝術大観 第1巻 秋田縣角館町飾山囃子記録』郷土研究社
無記名 1928 「この春の郷土舞踊」『芝居とキネマ』第5年第5号
山路興造 2018 「日本青年館の全国民俗芸能大会」文化庁文化財部監修『月刊文化財』658号 第一法規

【第8回郷土舞踊と民謡の会写真（日本青年館所蔵）】



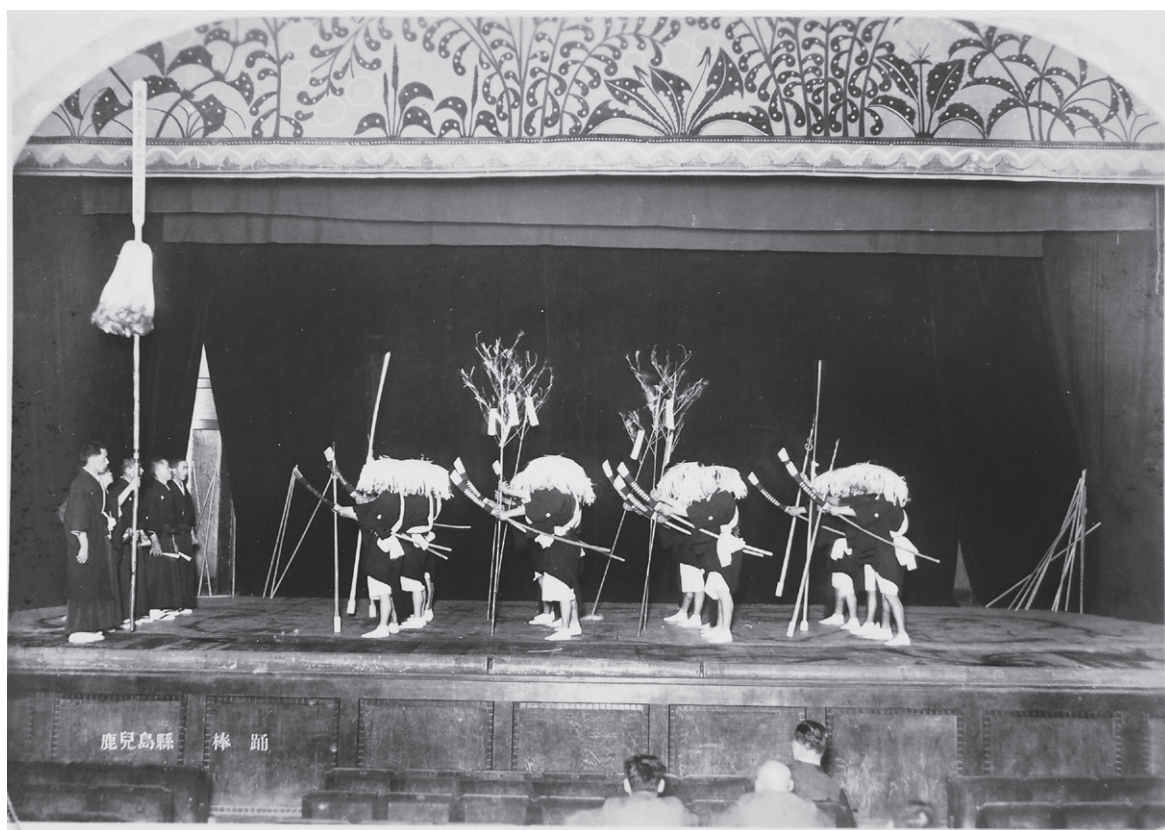
台紙番号 2 船唄（北海道）



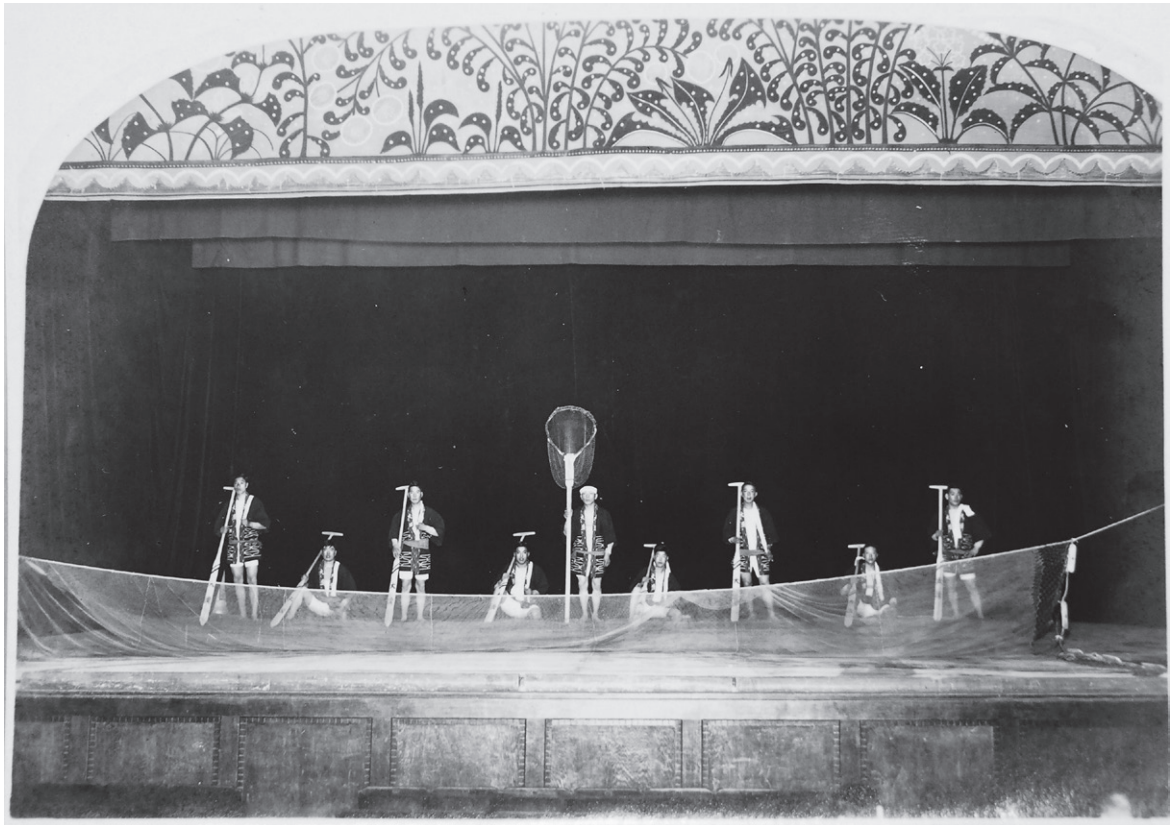
台紙番号 3 臼太鼓をどり（熊本県）



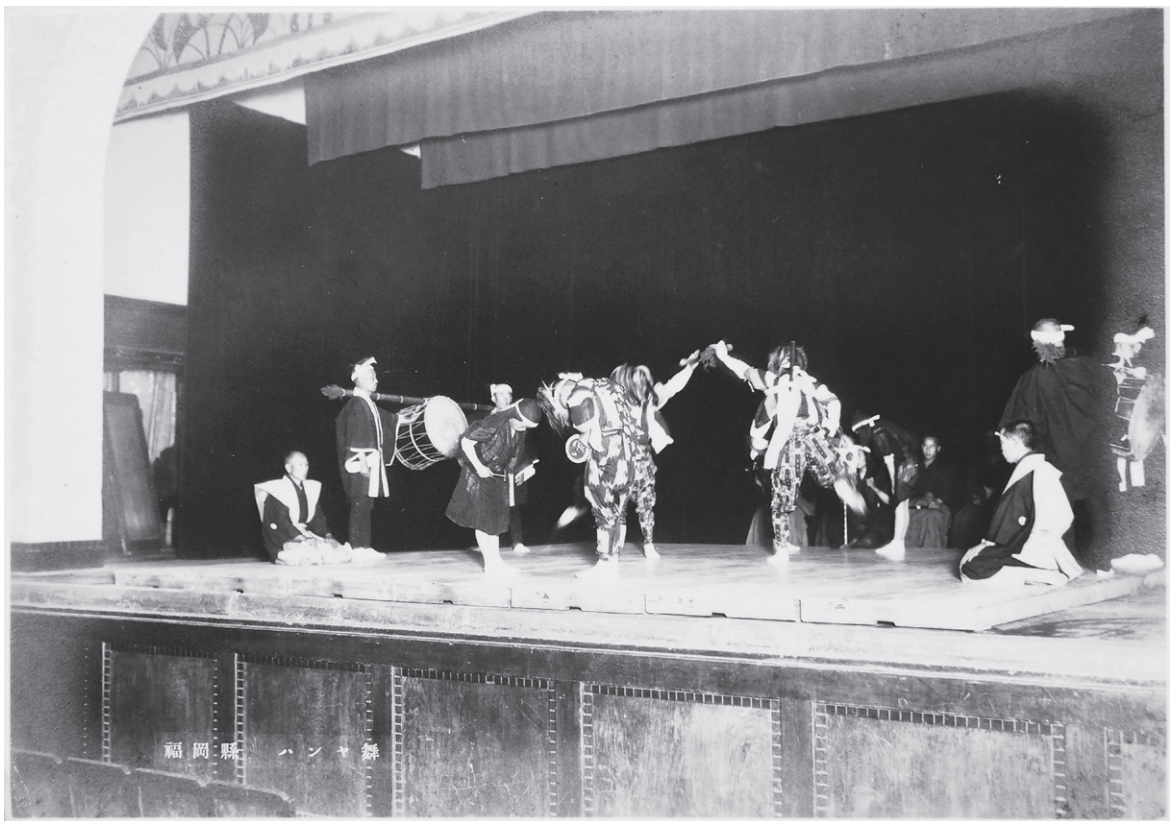
台紙番号 4 棒踊 (鹿児島県)



台紙番号 5 棒踊 (鹿児島県)



台紙番号 6 船唄（北海道）



台紙番号 7 風流とハンヤ踊（福岡県）



台紙番号 8 朝鮮の豊年踊



台紙番号 10 朝鮮の豊年踊



台紙番号 11 朝鮮の豊年踊



台紙番号 12 豊年をどり (群馬県)



台紙番号 13 豊年をどり (群馬県)

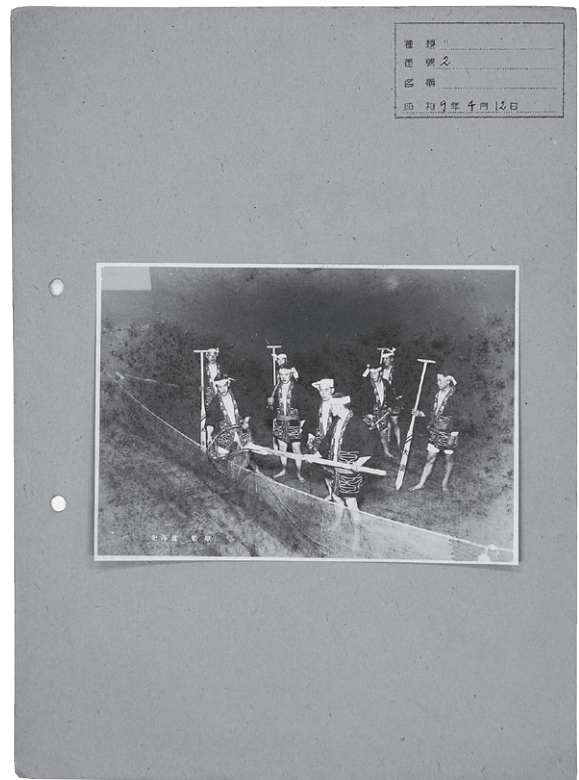


台紙番号 14 豊年をどり (群馬県)

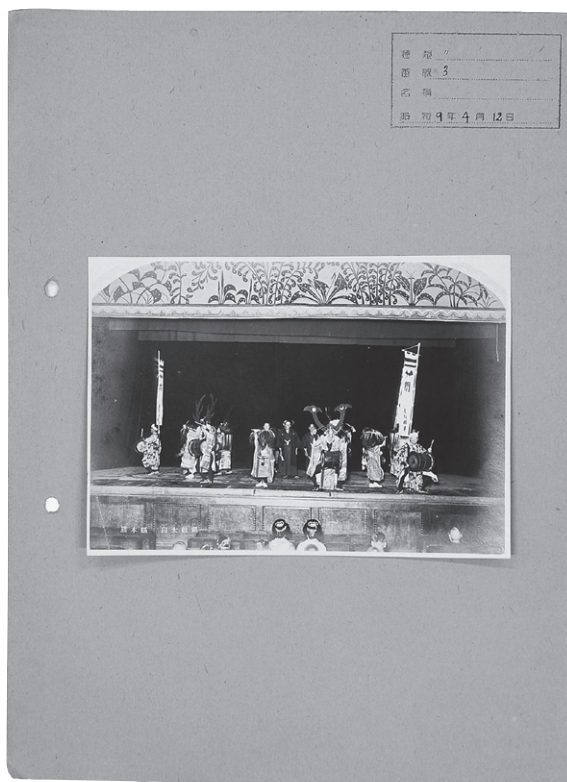
【郷土舞踊と民謡の会写真（台紙）】



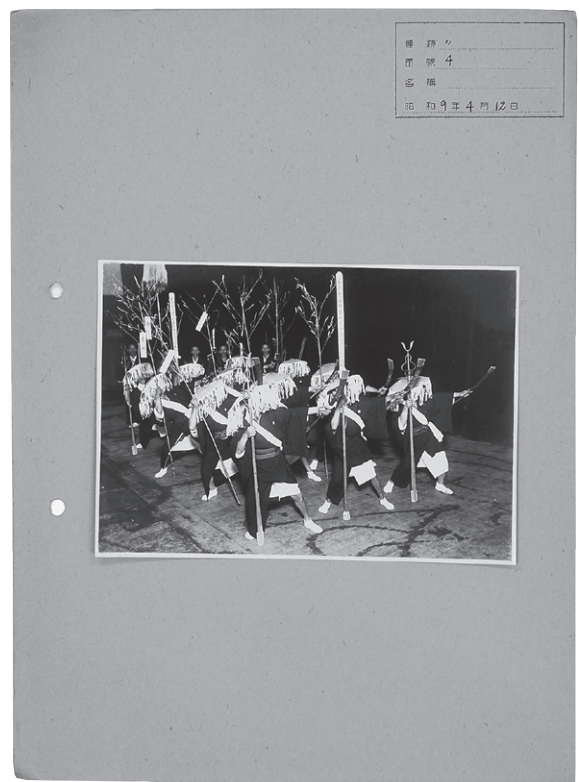
表紙



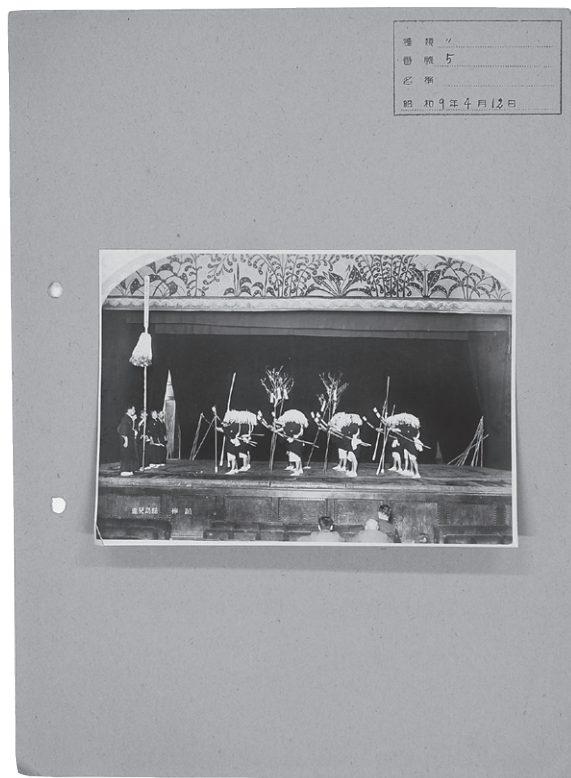
台紙番号 2



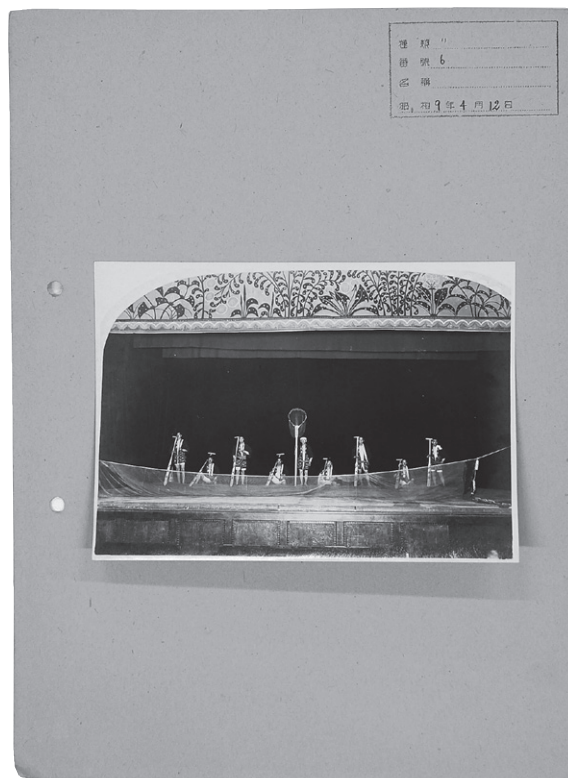
台紙番号 3



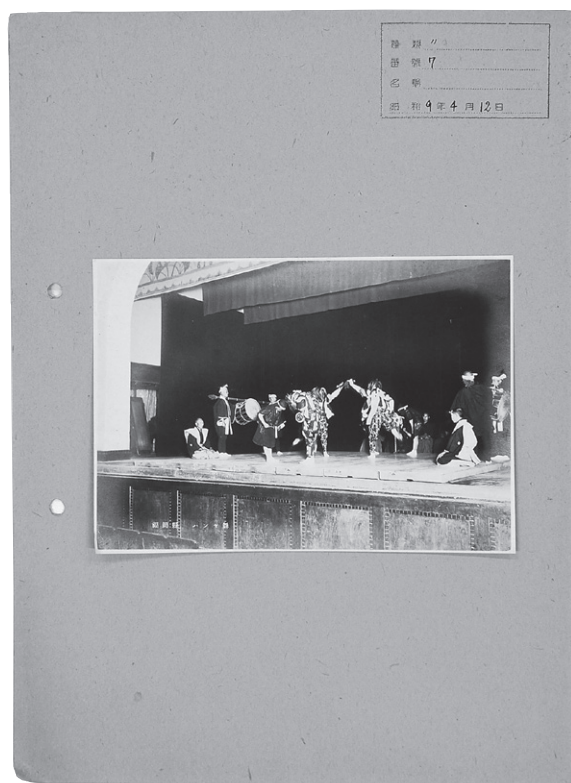
台紙番号 4



台紙番号 5



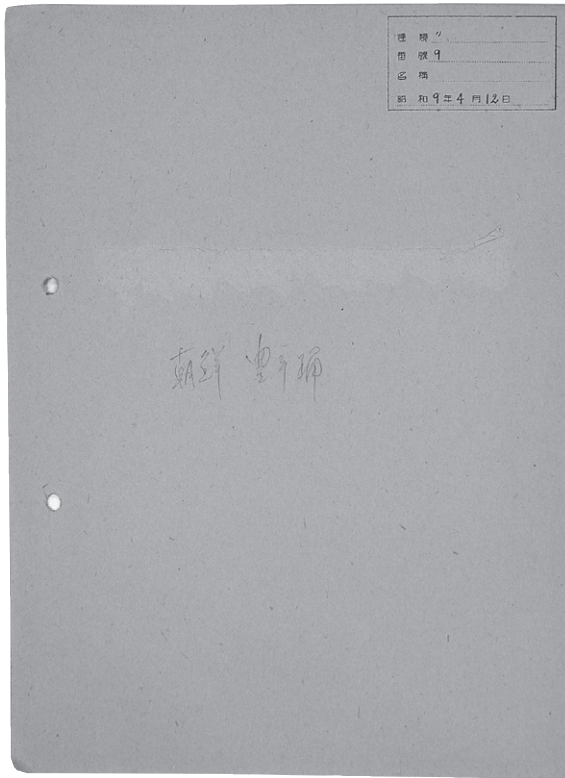
台紙番号 6



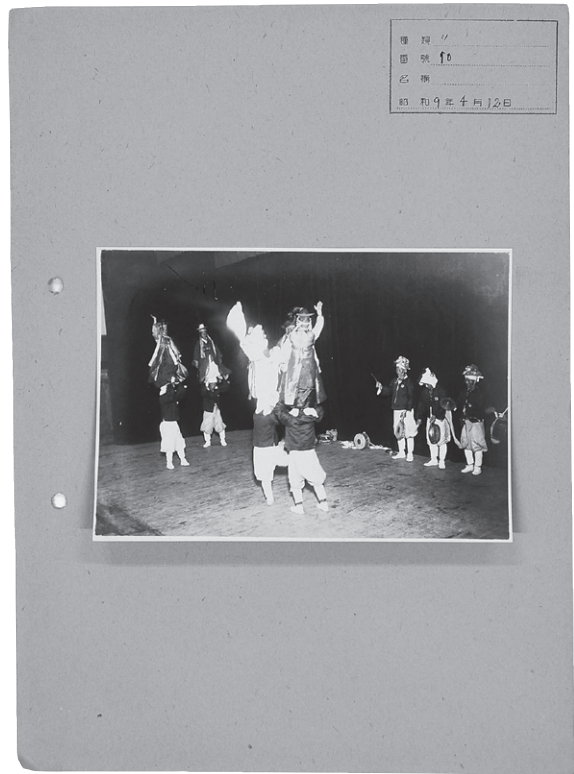
台紙番号 7



台紙番号 8



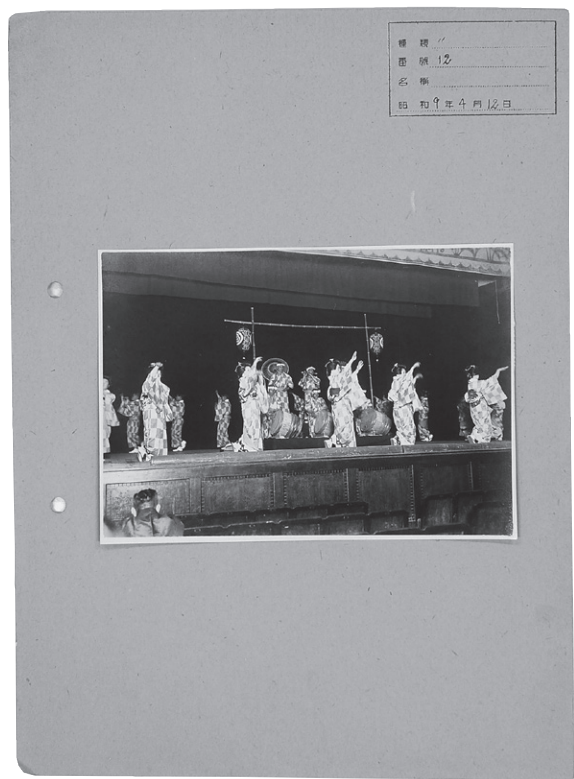
台紙番号 9



台紙番号 10



台紙番号 11



台紙番号 12



台紙番号 13



台紙番号 14